

# 2016 年度 大阪大学 前期 世界史

## (I) 中国歴代王朝の版図

出題範囲	中世～近世の政治史
難易度	★★★☆☆
所要時間	25 分
傾向と対策	標準的な難易度の問題であり、空欄補充問題を速やかに答えたのちに、論述問題でどれだけしっかりとした解答を書けるかがカギである。必要とされる知識も決して細かくはないため、できれば満点に近い解答を作りたい。しかし、東南アジア史が苦手な問 2 はよい解答を書けなかった受験生がいたかもしれない。大阪大学に限らず多くの大学入試ではまんべんなく各地域からの出題があるため、苦手な地域を作らないように学習したい。

### 《この解説の使い方》

**黒太字** …この試験で合格点を取るために必要な頻出語句や内容を黒太字で記載した

**赤字** …解答に関連する語句または内容を赤字で記載した

**青字** …この試験で合格点を取るためにおさえておきたい年号を青字で記載した

### 解答

問 1  唐  ネルチンスク  ジュンガル

問 2 ベトナム北部で李朝大越国は独立し、陳朝は元の侵攻を撃退し独立を守った。陳朝滅亡後の胡朝は明朝に支配され、黎朝として独立したのちは中国の冊封を受けた。阮朝越南国も冊封を受けて清を宗主国にしたが、ユエ条約でフランスの保護国となり、清仏戦争でフランスが勝つと、ベトナムは植民地となりフランス領インドシナ連邦が形成された。(157 字)

問 3 ロシアはアイグン条約で黒竜江以北を、北京条約で沿海州を得て、ウラジヴォストークを建設した。その後イリ条約では新疆に進出し、日清戦争後には東進鉄道敷設権を獲得して、三国干渉後に旅順・大連の租借権を得た。(100 字)

### 問 1 難易度：★★★☆☆

#### 解答

唐  ネルチンスク  ジュンガル

#### 解説

ベトナム北部が独立を達成したのは唐の滅亡以後である。11 世紀の初めにベトナムは李朝大越国として独立した。唐が滅亡すると、中国は混乱に陥ったため、10 世紀以降、中国の支配下にあった地域では

政権交替が次々と起こり、多くの国が独立したことは覚えておくとよいだろう。

イ 「康熙帝はまた黒竜江（アムール川）方面で」とあることから、イには**ネルチンスク**が入る。ネルチンスク条約は、中国とロシアの東方部分の国境をアルグン川と外興安嶺とした条約で、康熙帝とピョートル 1 世の間で結ばれた。なお、モンゴル方面の国境を画定させた条約はキャフタ条約であり、雍正帝とピョートル 2 世が結んだ。2つの条約を混同しないように気をつけよう。

ウ 問題文中に「ウを滅ぼして……『新疆』と名付けた」とあることから、答えは**ジュンガル**。ジュンガルとの対立は康熙帝の治世から続いており、康熙帝はジュンガルの領土であった外モンゴルを支配した。その後もジュンガルはタリム盆地に本拠地を移し、チベットへの進出を図って抵抗していたが、乾隆帝の時代に平定された。

## 問 2 難易度：★★★★☆

### 解答例

ベトナム北部で李朝大越国は独立し、陳朝は元の侵攻を撃退し独立を守った。陳朝滅亡後の胡朝は明朝に支配され、黎朝として独立したのは中国の冊封を受けた。阮朝越南国も冊封を受けて清を宗主国にしたが、ユエ条約でフランスの保護国となり、清仏戦争でフランスが勝つと、ベトナムは植民地となりフランス領インドシナ連邦が形成された。(157 字)

### 設問の要求

字数 150 字程度

主題 唐が滅亡してから 19 世紀末までのベトナム北部の、独立と服属の歴史

条件 指定語句をすべて使用する

### 解説

問われている内容は基本的なものなのでしっかりとした解答を書きたいところであるが、東南アジア史が苦手な受験生はあまりよい解答を書けなかったかもしれない。この機会に必ず復習しておこう。

問 1 のアの解説でも述べたように、唐の滅亡後に北ベトナムで李朝大越国が独立を達成した。大越国の王朝が李朝から陳朝へと変わっても、元の侵攻を撃退するなどして独立を守り続けた。しかし陳朝から胡朝へ変わると明の永楽帝によって征服され、明の支配を受けた。黎朝が成立すると明からの独立を達成するが、明とは冊封関係を結び良好な関係が保たれ、冊封関係自体は明から清に変わっても継続された。黎朝が弱体化すると西山朝が成立し、これを倒した阮福暎が阮朝越南国を成立させた。しかし阮朝のベトナム統一にフランスが協力し、これを名目にフランスはベトナム進出を開始する。このフランスの進出に対してベトナムは黒旗軍の力を借りながら抵抗をつづけたが、ユエ条約によって保護国化された。ベトナムの宗主国である清とフランスの間で対立が生じたが、清仏戦争で清は大敗、天津条約によって清はフランスによるベトナム保護国化を認めることになった。そのため、ベトナムはフランスの植民地となり、フランス領インドシナ連邦が形成され始めた。

## 問3 難易度：★★★★☆

## 解答例

ロシアはアイグン条約で黒竜江以北を、北京条約で沿海州を得て、ウラジヴォストークを建設した。その後イリ条約では新疆に進出し、日清戦争後には東進鉄道敷設権を獲得して、三国干渉後に旅順・大連の租借権を得た。(100字)

## 設問の要求

字数 100字程度

主題 19世紀後半におけるロシアの中国への進出

条件 条約名や地域名を具体的に挙げる

## 解説

書けることは非常に多いが、具体的な条約名や地名を挙げるのが要求されているので、事実を羅列していくだけですぐに字数が埋まる。解答に必要な知識も特に細かいものはないため、知らないものがあればよく復習しておこう。また、19世紀後半から19世紀末にかけては他の列強も中国に進出しているため、こちらも確認しておこう。

ロシアは南下政策の一環として東アジアへの進出を試みていた。1858年、ロシアの初代東シベリア総督であるムラヴィヨフがアイグン条約を結び、黒竜江以北を獲得して沿海州は共同管理とした。続いて、アロー戦争において清朝とイギリス・フランスの講和を斡旋した見返りとして北京条約を締結し、沿海州を獲得した。これによってロシアの領土は日本海にまで到達し、不凍港としてウラジヴォストークを建設した。イリ事件ではロシアがイリに出兵し占領した。そしてイリ条約によって、清朝は領土を回復したが、新疆全土はロシアに対して市場として開放され、ロシアは新疆への経済的な進出に成功した。また、19世紀後半にバルカン半島への進出に失敗すると、19世紀末には東アジアへの進出を強化した。1891年にシベリア鉄道の建設を開始し、日清戦争で日本に敗北した清に対して東清鉄道敷設権を認めさせた。さらに、日本が東アジアに進出することを阻止するために、三国干渉によって日本に中国へ遼東半島を返還させ、その見返りとして旅順・大連の租借権を得た。しかし、このような東アジアへの進出は日本との間に軋轢を生むことになった。

(谷口昂輝, 林遼河, 的場光紀)

## 2016年度 大阪大学 前期 世界史

### (II) 古代～現代の地中海世界

出題範囲	古代～現代の政治・文化史
難易度	★★★★☆☆
所要時間	30分
傾向と対策	B.C.3世紀から現代までの、地中海沿岸の国家・王朝に関連する問題。論述問題では教科書や用語集レベルの基本的な事項が問われている。ただし、一問一答問題には、問5のように地名とその位置を結びつけられるかが重要となる問題や、問8のように時事的な問題も含まれている。普段から地理関係を意識して学習するとともに、世界情勢についてある程度は気を配っておこう。

#### 《この解説の使い方》

**黒太字** …この試験で合格点を取るために必要な頻出語句や内容を黒太字で記載した

**赤字** …解答に関連する語句または内容を赤字で記載した

**青字** …この試験で合格点を取るためにおさえておきたい年号を青字で記載した

#### 解答

問1 重装歩兵としての長期従軍や属州からの安価な穀物の流入により没落した中小農民が無産市民と化して都市へ流入する一方、属州の徴税請負で富裕化した騎士は公有地や荒廃した農地を買って奴隷制大農場を経営し、貧富の差が拡大した。(107字)

問2 アウグスティヌス

問3 ヴァンダル王国, 東ゴート王国

問4 聖像崇拜論争

問5 C, D

問6 ローマ教皇がモンゴルの偵察と布教を兼ねてプラノ＝カルピニを、フランス王が十字軍への協力要請と布教のためにルブルックを派遣した。その後の教皇に派遣されたモンテ＝コルヴィノは元の大都会カトリックを布教し、後任としてマリニョーリが教皇により派遣された。(123字)

問7 【名称】カピチュレーション

【内容】オスマン帝国内のおもにキリスト教徒の商人に対する、安全保障、居住・通商の自由、領事裁判権、免税特権など。(52字)

問8 エ

## 問1 難易度：★★★★☆

## 解答例

重装歩兵としての長期従軍や属州からの安価な穀物の流入により没落した中小農民が無産市民と化して都市へ流入する一方、属州の徴税請負で富裕化した騎士は公有地や荒廃した農地を買って奴隷制大農場を経営し、貧富の差が拡大した。(107字)

## 設問の要求

字数 100字程度

主題 B.C.3世紀～1世紀のはじめの征服戦争と版図の拡大がローマ社会にもたらした変化

条件 指定語句をすべて使う

## 解説

この問題では社会の変化について問われているので、与えられた期間(B.C.3世紀～1世紀初頭)の最初と最後における社会の違いに注目することが必要である。「紀元前3世紀」のイタリア半島外部での征服戦争の始まりとは、ローマが最初の属州シチリアを得た**第1回ポエニ戦争**(B.C.264～B.C.241年)である。また、「1世紀のはじめ」の征服戦争とは、**アクティウムの海戦**(B.C.31年)の翌年にプトレマイオス朝を滅亡させ、エジプトを属州としたことであろう。

アクティウムの海戦に勝利した**オクタウィアヌス**が**B.C.27年**にアウグストゥスの称号を与えられて**元首政**(プリンキパトゥス)を始めたことによって、**内乱の1世紀**は終息したのだが、この内乱の1世紀の背景こそが本問で問われている**ローマ社会にもたらされた変化**である。本解説では解答に直接かかわる事項についてのみ触れるので、内乱の1世紀については「【整理】内乱の1世紀」を参考に、教科書などを使って学習してほしい。

**B.C.287年**の**ホルテンシウス法**での完成以降、ローマ共和政は市民軍の原則を基礎とし、軍事力の中核は武器自弁(武器を自力で調達する)で**重装歩兵として軍役につく中小農民**だった。しかし、ポエニ戦争以降続く征服戦争の結果、**長期間の出征による農地の荒廃と属州から輸入される安価な穀物の流通のため、中小農民は没落した**。農地を手放した彼らは**無産市民**と化し、**都市(ローマ)に流入**してパンとサーカス(安価な穀物と娯楽)を求めた。一方で、**属州の徴税請負人として富裕化した騎士(エクイテス)**は、**征服によって得られた公有地や農民の手放した土地を購入し**、戦争で得た捕虜を奴隷とする**奴隷制大農場(ラティフンディア)**の経営を拡大した。

このように**貧富の差が拡大し**、また中小農民の没落に歯止めを掛けようとした**グラックス兄弟の改革**も保守派の反対で失敗したため、市民軍の原則が成り立たなくなった。その結果、ローマ共和政も急速に動揺し、私兵集団を率いた有力者が政治的な権力をもってローマの権力をめぐり争う、**内乱の1世紀**に突入するのである。

【整理】内乱の1世紀：派閥の対立、都市や奴隷の反乱が相次いだ混乱の時代

- ・ **グラックス兄弟の改革の失敗**(B.C.133～B.C.121年)＝共和政の崩壊、職業軍人制へ(軍の私兵化)
- ・ **平民派と閥族派の対立**(B.C.1世紀初め)＝代表人物は、平民派：マリウス、閥族派：スラ
- ・ **同盟市戦争**(B.C.91～B.C.88年)＝都市の反乱、市民権がイタリア半島に拡大

- ・ **スパルタクスの反乱** (B.C.73~B.C.71年) = 混乱の頂点, ポンペイウス・クラッススが鎮圧
- ・ **第1回三頭政治** (B.C.60年) = ポンペイウス・カエサル・クラッススの私的な政治同盟
- ・ **カエサル独裁** (B.C.46~B.C.44年) = カエサル○ VS. ポンペイウス×
- ・ **第2回三頭政治** (B.C.43年) = アントニウス・オクタウィアヌス・レピドゥスの公的な政治同盟
- ・ **アクティウムの海戦** (B.C.31年) = オクタウィアヌス○ VS. アントニウス・クレオパトラ×
- ・ **アウグストゥス即位** (B.C.27年) = 混乱の終息, 元首政の成立

## 問2 難易度：★★★★☆

解答

### アウグスティヌス

解説

教父とは、教会によって承認された古代および中世初期のキリスト教徒の著作家のことで、正統教義の確立や教義の発展に貢献した。代表的な教父は、エウセビオス、アタナシウス、ヒエロニムス、**アウグスティヌス**。アウグスティヌスは、青年期は**マニ教**に帰依していたが、キリスト教に回心し『**神の国**』『**告白論**』を著した。彼の思想は中世の**スコラ哲学**に大きな影響を与えた。

## 問3 難易度：★★★★☆

解答

### ヴァンダル王国, 東ゴート王国

解説

476年の西ローマ帝国滅亡ののちに建国されたおもなゲルマン人の国家としては、**西ゴート王国**, **ヴァンダル王国**, **ブルグンド王国**, **アングロ=サクソン七王国** (ヘプターキー), **フランク王国**, **東ゴート王国**, **ランゴバルド王国**の7つが存在する。このうち、**ヴァンダル王国と東ゴート王国は6世紀に東ローマ帝国 (ビザンツ帝国) のユスティニアヌス大帝によって滅ぼされ**, これによって地中海帝国としてのローマが一時復活した。

ちなみに、西ゴート王国は**ウマイヤ朝**に、ブルグンド王国とランゴバルド王国は**フランク王国**に征服され、アングロ=サクソン七王国は七王国の1つである**ウェセックスの王エグバート**によって統一された。

## 問4 難易度：★★★★☆

解答

### 聖像崇拜論争

解説

8世紀前半には、ウマイヤ朝がヨーロッパの東西からキリスト教国への攻勢をかけていた。西ヨーロッパでは西ゴート王国の滅亡(711年)やトゥール・ポワティエの戦い(732年)が起こり、東ヨーロッパではビザンツ皇帝**レオン3世**がウマイヤ朝と激しく争っていた。レオン3世は、偶像崇拜を厳しく禁止するイスラーム勢力に対抗してすべての聖画像の制作と崇拜を禁止し、それらの破壊を命じる**聖像禁止令**を発布した。しかし、ゲル

マン人への布教に聖像を必要としたローマ教会はこれに強く反発し、東西の教会は禁止令をめぐって大論争を繰り広げた（**聖像崇拜論争**）。そして、これが東（コンスタンティノープル教会、のちのギリシア正教会）と西（ローマ教会）の分裂の契機となった。ちなみに 843 年には、ギリシア正教会においてもイコンという平面の聖像は認められるようになった。

### 問 5 難易度：★★★★☆

解答

C, D

解説

同時代に存在した国家という横のつながりの把握を必要とする問題。11 世紀後半には、**ガズナ朝** (C) と **カラハン朝** (D) 以外のトルコ系イスラーム王朝として**セルジューク朝**も存在していたので、それぞれの王朝の正確な位置を問われる難問といえる。イラン系、トルコ系のイスラーム王朝は頻出事項なので地図などで位置を確認しておこう。ちなみに、他の選択肢の国家・王朝は、ムラービト朝 (A)、ファーティマ朝 (B)、ウイグル (E)、遼 (F)、西夏 (G)。

### 問 6 難易度：★★★★☆

解答例

ローマ教皇がモンゴルの偵察と布教を兼ねて**プラノ＝カルピニ**を、フランス王が十字軍への協力要請と布教のために**ルブルック**を派遣した。その後の教皇に派遣された**モンテ＝コルヴィノ**は元の大都以カトリックを布教し、後任として**マリニョーリ**が教皇により派遣された。(123 字)

設問の要求

字数 120 字程度

主題 モンゴル帝国とローマ・カトリック圏との交渉

条件 交渉を担った人物の名前も挙げる

解説

複数存在する**モンゴル帝国とローマ・カトリック圏との交渉**を、人物と内容を混同することなく正確に覚えていれば、容易に解答することができただろう。

交渉は 4 回行われ、そのすべてがローマ・カトリック圏からの派遣だった。

①人物：**プラノ＝カルピニ**（ローマ教皇**インノケンティウス 4 世**が派遣、**グユク＝ハン**に面会）

内容：**モンゴル帝国の情報入手とキリスト教の布教**のため、使節として派遣。

②人物：**ルブルック**（フランス王**ルイ 9 世**が派遣、**モンケ＝ハン**に面会）

内容：**対イスラーム十字軍への協力要請とキリスト教布教**のため、私的な使者として派遣。

③人物：**モンテ＝コルヴィノ**（ローマ教皇**ニコラウス 4 世**が派遣）

内容：**キリスト教布教**のため、使節として派遣。**大都の総大司教として中国初のカトリック布教**。

④人物：**マリニョーリ**（ローマ教皇**ベネディクトゥス 12 世**が派遣）

内容：モンテ=コルヴィノの後任として、使節として派遣。4年ほどの滞在後に帰国。

①～③については教科書レベルの基本的な知識が多いため、確実に解答に加えたい。④のマリニョーリは用語集レベルの発展的な事項であるため、解答に含めなくても減点対象にはならないだろう。また①～④のほかに、ローマ・カトリック圏出身のモンゴル帝国に関連する有名な人物として、元のフビライに仕え、獄中で『世界の記述』（『東方見聞録』）を口述したマルコ=ポーロが存在するが、彼の事績は「モンゴル帝国とローマ・カトリック圏との交渉」には含まれないと考え、本問では解答に加えなかった。

## 問7 難易度：★★★★☆

### 解答例

【名称】カピチュレーション

【説明】オスマン帝国内のおもにキリスト教徒の商人に対する、安全保障、居住・通商の自由、領事裁判権、免税特権など。(52字)

### 設問の要求

字数 50字程度

主題 カピチュレーションの内容

### 解説

本問のように、世界史のある用語の内容について簡潔に論述する、というタイプの知識問題で失点することのないように、1つひとつの用語について普段から正確に理解するように努めよう。

カピチュレーションとは、1535年にフランスのフランソワ1世との同盟に際して、スレイマン1世がフランス商人に慣習として与え、次代のセリム2世が正式に付与した特権である。オスマン帝国内のフランス商人に対して、身体・財産などの安全を保障し、居住・通商の自由、領事裁判権などの治外法権、免税特権などを与えた。当初は、このカピチュレーションは非イスラーム教徒であるフランス商人の保護を目的としていた。しかし、フランス以外の諸国も同様の特権を要求するようになり、カピチュレーションの対象は、おもにキリスト教徒の商人へと拡大されていった。18世紀以降には、列強の経済的進出の口実として利用されるようになり、オスマン帝国の弱体化を進めた。

## 問8 難易度：★★★★☆

### 解答

エ

### 解説

時事問題。キプロス紛争の当事者は、トルコとギリシア。キプロス紛争については教科書・用語集に記載がないが、パレスチナ紛争、ボスニア・ヘルツェゴビナ紛争、チェチェン紛争については教科書に記載があり、またクリミア紛争に関しては、時事的なことを知らなくても、クリミア半島が18世紀以降ロシア（ソ連）の管轄下にありトルコが紛争の当事者となる可能性が低いことから、消去法で正解を選びたい。正解以外の選択肢の紛争の当事者は次のよう。



- ア. パレスチナ紛争…イスラエル, パレスチナ解放機構 (PLO)
- イ. クリミア紛争…ロシア連邦, ウクライナ
- ウ. ボスニア・ヘルツェゴビナ紛争…ボスニア・ヘルツェゴビナ, クロアチア, ユーゴスラヴィア
- オ. チェチェン紛争…ロシア連邦, チェチェン共和国

(的場光紀, 今村優太, 町田佳奈子)

## 2016 年度 大阪大学 前期 世界史

### (III) ヒトの交流やモノの交易が与えた刺激

出題範囲	近世の政治・文化史
難易度	★★★★☆
所要時間	30分
傾向と対策	問1はガレオン貿易について記述する問題である。ガレオン貿易は教科書でもまとめて記述されているので比較的解答しやすかったであろう。問2は大西洋三角貿易についての問題。ベニン王国は教科書などであまり大きく扱われていないので少し難しかったかもしれないが、三角貿易についての問題は頻出なのでおさえておこう。問3は解答の方向性を決めるのが少し難しい問題だ。王立協会の役割などを正確に覚えておこう。

#### 《この解説の使い方》

**黒太字** …この試験で合格点を取るために必要な頻出語句や内容を黒太字で記載した

**赤字** …解答に関連する語句または内容を赤字で記載した

**青字** …この試験で合格点を取るためにおさえておきたい年号を青字で記載した

#### 解答

- 問1 スペインはアカプルコとマニラをガレオン船によって結び、マニラを南シナ海地域とアメリカ大陸とのあいだの中継拠点とした。アカプルコからはメキシコ銀が運ばれて、マニラからは中国産の絹や陶磁器、インド産の綿布などが運ばれた。(108字)
- 問2 ポルトガルは西アフリカのベニン王国と交易し、銃火器などを輸出して金・象牙などを輸入した。ポルトガルは外国商人とアシエントとよばれる奴隷供給契約を結び黒人奴隷をアフリカ大陸から新大陸へと運んだ。(97字)
- 問3 科学革命が起こり、観察・実験を重んじた近代自然科学が哲学的手法と結びつき発展した。イギリスでは王立協会という学術団体が設立されボイルやニュートンなどの科学者が科学の発展に貢献した。リンネは植物の分類学を確立した。(106字)

#### 問1 難易度：★★★★☆

##### 解答例

スペインはアカプルコとマニラをガレオン船によって結び、マニラを南シナ海地域とアメリカ大陸とのあいだの中継拠点とした。アカプルコからはメキシコ銀が運ばれて、マニラからは中国産の絹や陶磁器、インド産の綿布などが運ばれた。(108字)

**設問の要求**

字数 100 字程度

主題 タバコ普及の背景にあった南シナ海諸地域とアメリカ大陸の交易関係

条件 主要交易品とその産地、輸送手段に言及する

**解説**

16～17 世紀のアメリカ大陸と南シナ海諸地域の交易関係に深くかかわっているのは、当時メキシコなどの新大陸とフィリピンを領有していたスペインである。その当時メキシコは銀を大量に産出しており、それをを用いてスペインはアジアの各地域と貿易を行った。メキシコではアカプルコを拠点として、フィリピンではマニラを拠点として貿易を行った。このとき貿易に使用した船はガレオン船とよばれる船であったため、メキシコとフィリピンを結ぶ貿易はガレオン貿易（アカプルコ貿易）とよばれている。この貿易ではマニラは南シナ海諸地域とアメリカ大陸とのあいだの中継拠点となった。マニラからアカプルコへは中国産の絹や陶磁器、インド産綿布などが運ばれた。そして、アカプルコからマニラへはメキシコ銀が運ばれた。

**問 2 難易度：★★★★☆****解答例**

ポルトガルは西アフリカのベニン王国と交易し、銃火器などを輸出して金・象牙などを輸入した。ポルトガルは外国商人とアシエントとよばれる奴隷供給契約を結び黒人奴隷をアフリカ大陸から新大陸へと運んだ。

(97 字)

**設問の要求**

字数 100 字程度

主題 キャッサバ普及の背景にあった 15～16 世紀のポルトガルの交易活動

条件 指定語句をすべて使って使用する

**解説**

15～16 世紀のポルトガルの交易活動について記述する問題であるが、下線部(2)からわかるように、ポルトガルと西アフリカとの交易関係について記述する問題であるとわかる。ポルトガルが交易を行った西アフリカの国はベニン王国である。ポルトガルは大航海時代にアフリカ西岸に到達し、ベニン王国との交流が始まった。ポルトガルからは、銃器・雑貨などが運ばれ、ベニン王国は象牙・金・黒人奴隷などを輸出した。スペインやポルトガルなどが新大陸に進出するようになると、現地のプランテーションなどで労働力が必要となったので、スペインは外国商人と奴隷を供給する契約を結んだ。これがアシエントである。アシエントは莫大な利益をもたらす契約だったので、各国はこれをめぐって争った。ポルトガルはアシエントを得て、大量の黒人奴隷を西アフリカから新大陸へ運んだ。そして、ベニン王国は奴隷を供給するために奴隷狩りを行った。

**問 3 難易度：★★★★☆****解答例**

科学革命が起こり、観察・実験を重んじた近代自然科学が哲学的手法と結びつき発展した。イギリスでは王立協会という学術団体が設立されボイルやニュートンなどの科学者が科学の発展に貢献した。リンネは植物の分

**類学を確立した。(106 字)****設問の要求**

**字数** 100 字程度

**主題** 17～18 世紀のヨーロッパにおける学問の動向

**条件** 指定語句をすべて使用する

**解説**

ヨーロッパにおける学問の動向について説明する問題であるが、指定語句からある程度の解答の方向性はつかめる。「科学革命」や科学アカデミーである「王立協会」、植物学の分野で功績を残した「リンネ」といったキーワードから、学問の中でも特に科学に関することについて記述すればよいことがわかる。**科学革命**とは17世紀に自然界の研究が急速に進み、近代自然科学が急速に発展したことである。科学革命の特徴は観察・実験を重んじて、帰納法・演繹法などの哲学的手法とともに発展したことである。科学発展の原因となった出来事が、科学者達が集った科学アカデミーの設立である。この時代のヨーロッパでは各国で科学アカデミーが設立されたが、その中でも代表的なものがイギリスで設立された**イギリス王立協会**である。イギリス王立協会は科学革命が進む中で知識人らの私的団体として発足したのが始まりである。近代物理学の基礎をうちたてたニュートンやボイル、動植物の**分類学**を確立したリンネなど、この王立協会には有名な科学者が多数在籍していた。

(今村優太, 林遼河, 的場光紀)